

文章題テスト・小説(5)

月 日
名 前

★つぎの文しようを読んで、あとの問いに答えましよう。

タツオの家には、こわれた柱時計が、そのまま、かべにかけてありました。

【この時計は、全体が古い西洋館のよな形をしていて、ふりこの見えるガラスまどのあるところが、一階、文字盤のあるところが二階です。ひさしの下には、かわいいかざりまどもあり、とびらをあげると、そこからねじがまけるようになっていきます。】

ずいぶんまえから、とまったままですが、そんなかわったおもしろい形をしているので、おとうさんもおかあさんも、かたづけてしまおうのがおしかったのです。

時計のはりは、三時七分まえをさして、とまっていました。

「だからぼく、この時計を見るたびに、もうじき、なんておもっちゃうよ。」

タツオはよくそういってわらいました。

ところが、ある日のことです。

タツオが、ふと時計を見ると、はりは、三時二分まえをさしていました。タツオは、おやっと思いました。

「あれ、いつの間にか、少し進んだな。こいつ、いまでもちよつとは動くことがあるのかな。」

そんなことをつぶやいて、首をひねりました。でも、それはそのときだけで、すぐわすれてしまいました。

こわれた時計が、なぜ動いたのかというと、コロボックルの子どもが、あそびにきたからです。もちろん、だれもないときに。

コロボックルの子どもは、家の形をした柱時計が気にいって、中にもぐりこみました。そして、一人がふりこをみつけると、さっそくぶらんこあそびをはじめました。

カッチン、カッチン、カッチン……。ふりがゆれると、ほんのすこしのこっていたぜんまいの力で、はりが動きました。それで、五分だけすすんだのでした。

(佐藤さとる「コロボックルと時計」より)

(注) 西洋館…ヨーロッパやアメリカふうのつくりの家
コロボックル…アイヌの人びとでんせつにとうしようする、フキの下にすむという神さま
ぜんまい…うずまきの形のばね



1 「」の中の文しようのはたらきを、次のようにまとめました。□に当てはまることばを、文中から漢字一字で書きぬきましよう。

こわれた柱時計の□を、くわしくせつめいしている。

2 線「古い」とはんたいの意味のことばになるように、次の□に当てはまる漢字を書きましよう。

□
しい

3 線「かたづけしてしまうのがおしかった」について、次の①、②に答えましよう。

①この意味としてもっともふさわしいものを、アウからえらんで、記号に○をつけましよう。

- ア かたづけてしまうのはもったいないと思った
- イ かたづけられなくてざんねんだと思った
- ウ もうすこしでかたづけられそうだった

②おとうさんとおかあさんが、このように思ったのはなぜですか。もっともふさわしいものを、アエからえらんで、記号に○をつけましよう。

- ア 思いでのつまった品しなだったから。 イ かわったおもしろい形をしているから。
- ウ また動くようになるかもしれないから。 エ ほかに時計がなかったから。

4 □に当てはまることばとしてもっともふさわしいものを、アエからえらんで、記号に○をつけましよう。

- ア 動くかな イ 帰ってくるな ウ おやつだな エ タごはんだな

5 線「おやっと思いましたが、タツオがこのように思ったのはなぜですか。次の□に当てはまることばを考えて、五字までで書きましよう。

時計のはりが□
いるのに気がついたから。

6 線「首をひねりました」とありますが、タツオはどのように思ったのですか。次の□に当てはまることばを、考えて書きましよう。

□
だなと思った。

7 線「ふりがゆれる」とありますが、ふりがゆれた理由を次のようにまとめるとき、□に当てはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきましよう。

□	□	□	□	□
□	□	□	□	□
□	□	□	□	□
□	□	□	□	□

が、時計のふりこで

をしたから。

